

祝

成人

竜丘地区成人式 盛大に開催



一月十日、地区をあげての成人式が竜丘公民館において、竜丘地区出身の新成人の皆さん八十二名が参加して盛大に行われました。



発行所 飯田市竜丘公民館
編集人 竜丘公民館広報委員会
印刷所 龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,820人
男子	3,336人
女子	3,484人
世帯数	2,272戸
(22年1月末現在)	

開式前、色とりどりの晴れ着姿や羽織袴の新成人で会場となった公民館大ホールは、華やいだ雰囲気になっていました。今年度の成人式も式典、記念行事、祝賀会の三部構成で行われました。第一部の記念式典は、厳肅な雰囲気の中、木下和彦公民館長のあいさつで始まり、豊秋自治会長から「厳しい世の中であるが、もう一度自分の将来を見つめて皆さんに励んでほしい。そしてつがは竜丘に戻って生きてほしい。」とのお祝いの言葉がありました。

続いて鈴岡太鼓の皆さんによる勇壮な祝いの太鼓の披露があり、その力強い演奏に、新成人は心を打たれ聴き入っていました。第一部の最後には、新成人を

この度の成人式では、地域の方々をはじめ、多くの方々にお祝いして頂きありがとうございました。成人式の実行委員を引き受けたときは、まだ成人式が先だったこともあり、あまり深く考えることもありませんでした。しかし文化委員長をはじめとする方々と会議を重ねるに当たって、自分の役割を認識しました。第二部の企画がなかなか決まらず、十時に公民館が閉ま

過日一月十日に、竜丘地区成人式が行われました。高校を卒業し地元への就職を選んだ私は、今年成人式実行委員を務めることになりました。私も含め実行委員は地元での進学、就職という進路を選んだ九名で構成され、修学や職務の間を縫うての活動の中で全員が集まれる機会はありませんでした。物事がスムーズに決まるとは少なく、課題も不安も増えていく一方でした。中学校時代の恩師を訪ねビデオレターを撮影に行った日、先生方を訪ねる毎に言

代表して佐分静香さん(長野野原)が「困難に直面することもあると思う。そんな時、両親の言葉や友人、いつも応援してくださっている地域の皆さんの存在が大きい。これからも前向きに苦境に立ち向かっていきたい。」と決意を語りました。第二部の記念行事は、新成人有志九人による実行委員の運営により行われました。思い出の残る成人式にしようと実行委員の皆さんは、昨年十一月から準備を進めてこられました。

つてからも、場所を変えて会議を続けたことも今ではよい経験となりました。また記念誌に地域自慢のページがあり、編集にあたり、頑張り続けている友人を紹介し、この成人式で友人たちと再会し、皆それぞれが頑張っていることを確認しました。第二部の企画でも頑張り続けている友人を紹介し、この成人式で友人たちと再会し、皆それぞれが頑張っていることを確認しました。第二部の企画でも頑張り続けている友人を紹介し、この成人式で友人たちと再会し、皆それぞれが頑張っていることを確認しました。

か、この成人式で友人たちと再会し、皆それぞれが頑張っていることを確認しました。第二部の企画でも頑張り続けている友人を紹介し、この成人式で友人たちと再会し、皆それぞれが頑張っていることを確認しました。

の出席率だったことは、竜丘に暮らしていてもいなくても、竜丘のことを思ってくれているのだと感銘しました。これから自分たちが地域に何ができるのか、またかわりませんが、成人式を祝って頂いた公民館をはじめとする地域の方々とともに、実行委員として成人式を作り上げたことは良い経験になりました。

最後に成人式に関わって頂いたすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。今年度は四年に一度の冬季オリンピック開催の年で、場所はカナダのバンクーバーで、日程は二月十二日〜二十八日の十七日間です。およそ八十の国と地域から五千五百人の選手・役員が参加します。

オリンピックと言えば、一八九六年にギリシャのアテネが発祥地として有名ですが、これは夏季オリンピック開催地です。では、冬季オリンピック最初の開催地はどこでしょう。調べましたら、フランスのシャモニー・モンブランでした。今回のバンクーバー大会は二十一年目の冬季オリンピックとなり、オリンピック開催地の決定方法ですが、皆さんもご存知の通り、オリンピック開催を希望する都市が立候補し、招致活動を行い、IOC委員の投票により決定します。記憶に新しいところでは、二〇一六年の夏季オリンピックの開催地に、東京が立候補しました。立候補してから、決定まで約三年半あまり、招致活動が行われました。残念ながら東京は落選し、ブラジルのリオネジャネイロに決定しました。南アメリカでは初めての開催となります。決定要因は様々あると思いますが、その一つに市民の支持率の高さが挙げられるかもしれません。やはり、この様なイベントを行う場合は実行委員だけでなく、そこに参加する全員の協力が必要だと思います。

竜丘にも運動会や文化祭など様々なイベントがありますが、この様なイベントも、参加する皆さんのご協力で成功していると思えます。この伝統を、一緒に受け継いでいきましょう。

成人式運営に関わって

時又 下平道徳



この成人式で友人たちと再会し、皆それぞれが頑張っていることを確認しました。第二部の企画でも頑張り続けている友人を紹介し、この成人式で友人たちと再会し、皆それぞれが頑張っていることを確認しました。

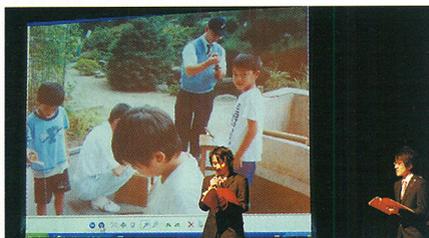
大人に成る

駄科 北澤奈菜



夜十時頃までリハーサルを重ねた日々は決して楽だったとは言えません。しかし、成人式当日を迎え友人たちの喜ぶ顔を見た後に残ったのは、成功の達成感と実行委員をやって良かったという気持ちだけでした。

小学校時代の思い出を語る



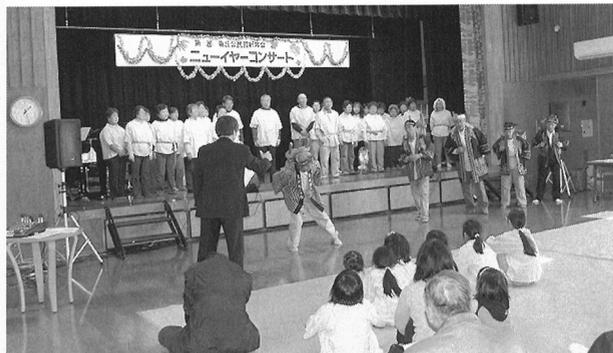
新成人の皆さんの今後の活躍を期待します。

多彩な発表で新春の交流 ニューイヤークンサート

去る一月二十四日に第十五回ニューイヤークンサートが、竜丘公民館において開催され、竜丘で活動する音楽グループや小中学生などの発表に会場は盛り上がりしました。

当日は天候にも恵まれ、出演者と観客あわせて三百五十人を超える会場は満員の状態で、十三のグループが日頃の練習の成果を発表し、音楽を通じた交流が盛大に行われました。

大正琴のグループGストリングス琴姫の演奏で幕を開けました。今回は始めた



飯田カネト合唱団による熱唱

ばかりのメンバーも含め子どもたち八人で三曲を演奏しました。飯田カネト合唱団は、保育園児から大人まで幅広いメンバーが参加し、「タヌキ」など四曲を演出もしながら熱唱し、会場が大いに盛り上がりしました。

この後、創楽会が島崎藤村の詩に曲を付けた「離別」などの合唱と、大人の学校のハーモニカクラブの演奏がありました。

緑ヶ丘中学校吹奏楽部は、フルート四重奏で「思い出は銀の笛」、弦楽器八重奏で「子どもたちのうた」、南信の吹奏楽アンサンブルコンテス

トに出場した金管楽器とコーン

トの演奏が、大人から子どもまで気軽に演奏した。また二回目の参加となるK・M・K・P・S(上川路・ママ・キッズ・パーク・カレッジ)は、鍵盤ハーモニカや打楽器などを使い、「明日があるさ」など二曲を、元気がいっぱい演奏し、会場から拍手や口ずさむ声が聞こえました。

竜丘小学校は、五年生による「冬げしき」の二部合唱と、歌の好きな児童が有

志で参加し、三、四年生十六人が「おおブレネリ」を、六年生男子三人は「山のこちそう」を、五年生六人は「ずいずいずつころばし」を合唱しました。

特に高学年の澄んだ歌声に、会場から感嘆の声が上がりました。

竜丘コーラスの合唱と鈴岡太鼓子ども連の演奏の後、全員で「早春賦」を合唱し、今年で十五回目を迎える

「古墳を後世に引き継ぐための検討委員会」(下平隆司会長)では、昨年、全国の中から優れた民間の考古学研究者に贈られる「藤森栄一賞」を受賞された、小林正春さん(駄科)を講師に迎え、「竜丘の古墳を学び、考える会」と題して、三回の講座にわけて、竜丘公民館で行われました。

第一回の講座は、「なぜ竜丘に古墳が多いのか」をテーマに行われました。古墳について、初歩から時代の背景や、地理条件をわかりやすく話され、竜丘の古墳の意義を「数の多さではなく、質でどうとらえていくかが重要」と語られました。

第二回は、「古墳を後世に引き継ぐ意義を考える」とし、古墳時代の竜丘が伊那

休後は、初回から参加している中島雑貨店が「スターオポ カウンティダウン」などアイルランド調の軽快な曲を演奏しました。また二回目の参加となるK・M・K・P・S(上川路・ママ・キッズ・パーク・カレッジ)は、鍵盤ハーモニカや打楽器などを使い、「明日があるさ」など二曲を、元気がいっぱい演奏し、会場から拍手や口ずさむ声が聞こえました。

竜丘小学校は、五年生による「冬げしき」の二部合唱と、歌の好きな児童が有

志で参加し、三、四年生十六人が「おおブレネリ」を、六年生男子三人は「山のこちそう」を、五年生六人は「ずいずいずつころばし」を合唱しました。

特に高学年の澄んだ歌声に、会場から感嘆の声が上がりました。

竜丘コーラスの合唱と鈴岡太鼓子ども連の演奏の後、全員で「早春賦」を合唱し、今年で十五回目を迎える

「古墳を後世に引き継ぐための検討委員会」(下平隆司会長)では、昨年、全国の中から優れた民間の考古学研究者に贈られる「藤森栄一賞」を受賞された、小林正春さん(駄科)を講師に迎え、「竜丘の古墳を学び、考える会」と題して、三回の講座にわけて、竜丘公民館で行われました。

第一回の講座は、「なぜ竜丘に古墳が多いのか」をテーマに行われました。古墳について、初歩から時代の背景や、地理条件をわかりやすく話され、竜丘の古墳の意義を「数の多さではなく、質でどうとらえていくかが重要」と語られました。

第二回は、「古墳を後世に引き継ぐ意義を考える」とし、古墳時代の竜丘が伊那

の参加者が集まりました。経験者は半数位でしたが、すぐにルールにも慣れ、実際に楽しそうでした。

これなら新しいユニークな道具として使えと確信しました。

今年度、公民館で一セット購入しました。しかし、少し大きな大会をするには三セットは必要です。高額ですが、各種補助金を使っても何とか揃えたいと考えております。分館、福祉施設子ども教室等で活用していただければ幸いです。

最終回の第三回は、「古墳についてのなんでも質問会」古墳保全・活用へ向けた学習の一環として開催され、今後の調査の方向などの質問に答えられました。

最後に下平会長は「古墳を後世に引き継ぐために、これからは学習を重ねて、方策を検討していこう」とまとめられました。

声を出して名文を読む

竜丘公民館 大人の学校 運営委員長 小林 泉

今年度は、「大人の学校」開校十五年目です。六十歳以上の方であれば、どなたでも入学出来る学校で塩沢義男氏が中心となって竜丘公民館の高齢者学級として開校されました。現在百七十八名が在籍しておりますが、本校の活動は毎年盛大に行われる「竜丘文化祭」に活動状況が発表されています。

また、多くの生徒が十八あるクラブに思い思いに所属し活動していますが、運営は八名から十名の運営委員

で行っています。毎月行われる講座、実はこの講座が大変大事な部分であります。この講座はあまり難しい事はやりません。簡単なスポーツや修学旅行があります。みんなで一緒にやる事に学校の意義があるのだと考えています。

今回は、図書館竜丘分館及び飯伊婦人文庫の皆さんのご協力を頂き、声を出して名文を読む」と言うのがこの講座のテーマでした。飯

伊婦人文庫の歴史と、声を

出して読むことの大切さを学ぶとともに、実際に声を出して読むことを行いました。

テキストは、斉藤孝氏の著書から河竹黙阿弥作「知らざあ言つて聞かせやしよう」の、「弁天娘女男白浪(白浪五人男)」から抜粋したものを採りました。

その後、関島アキ子さんの忘れかけていた「わらべ

歌」を聞いて楽しみました。毎回の講座の積み重ねが、大人の学校の基礎となっており、それぞれが多岐のこ

とを学ぶ機会となつていきます。

特に囲碁ボ

ト購入しました。しかし、少し大きな大会をするには三セットは必要です。高額ですが、各種補助金を使っても何とか揃えたいと考えております。分館、福祉施設子ども教室等で活用していただければ幸いです。



出している講座の様子



囲碁の対局の様子



囲碁の対局の様子

囲碁の対局の様子

囲碁の対局の様子

幅広い年齢層にて熱戦

冬季スポーツフェスティバル 体育委員長 小林良彦

十二月十三日に冬季スポーツフェスティバルが開催されました。この時期、インフルエンザの影響もあり、各分館での予選も含め、特に各分館役員の方々には苦勞をお掛けしました。一時は中止の声も聞かれる中、大会が盛大に行われたこと

は、区民並びに役員の皆様御協力があったからこそ感謝申し上げます。

競技としては、除々に定着しているワンバウンド・ふらばーのバレーと囲碁ボールを行いました。

特に囲碁ボ

ト購入しました。しかし、少し大きな大会をするには三セットは必要です。高額ですが、各種補助金を使っても何とか揃えたいと考えております。分館、福祉施設子ども教室等で活用していただければ幸いです。

ト購入しました。しかし、少し大きな大会をするには三セットは必要です。高額ですが、各種補助金を使っても何とか揃えたいと考えております。分館、福祉施設子ども教室等で活用していただければ幸いです。

ト購入しました。しかし、少し大きな大会をするには三セットは必要です。高額ですが、各種補助金を使っても何とか揃えたいと考えております。分館、福祉施設子ども教室等で活用していただければ幸いです。

ト購入しました。しかし、少し大きな大会をするには三セットは必要です。高額ですが、各種補助金を使っても何とか揃えたいと考えております。分館、福祉施設子ども教室等で活用していただければ幸いです。

ト購入しました。しかし、少し大きな大会をするには三セットは必要です。高額ですが、各種補助金を使っても何とか揃えたいと考えております。分館、福祉施設子ども教室等で活用していただければ幸いです。

ト購入しました。しかし、少し大きな大会をするには三セットは必要です。高額ですが、各種補助金を使っても何とか揃えたいと考えております。分館、福祉施設子ども教室等で活用していただければ幸いです。

今話題の「ユニークスポーツ」

「囲碁ボールの普及を目指して」

ユニークスポーツの囲碁ボールが注目されています。十二月のスポーツ大会でも、囲碁ボールは参加者も多く大変な人気でした。

人気の秘密は、幅広い年齢層と一緒に手軽に取組める点です。意外性があり、一打で局面がガラリと変わるなど、見ている人達も楽しめるというの大きな特徴です。

先日、時又三常会のレクレーションで、囲碁ボールが行われました。二十余名

の参加者が集まりました。経験者は半数位でしたが、すぐにルールにも慣れ、実際に楽しそうでした。

これなら新しいユニークな道具として使えと確信しました。

今年度、公民館で一セット購入しました。しかし、少し大きな大会をするには三セットは必要です。高額ですが、各種補助金を使っても何とか揃えたいと考えております。分館、福祉施設子ども教室等で活用していただければ幸いです。



囲碁の対局の様子



囲碁の対局の様子

囲碁の対局の様子

囲碁の対局の様子



♪ずいずいずつころばし

大切に守られてきた古墳を後世に！

小林正春さん講演

「古墳を後世に引き継ぐための検討委員会」(下平隆司会長)では、昨年、全国の中から優れた民間の考古学研究者に贈られる「藤森栄一賞」を受賞された、小林正春さん(駄科)を講師に迎え、「竜丘の古墳を学び、考える会」と題して、三回の講座にわけて、竜丘公民館で行われました。

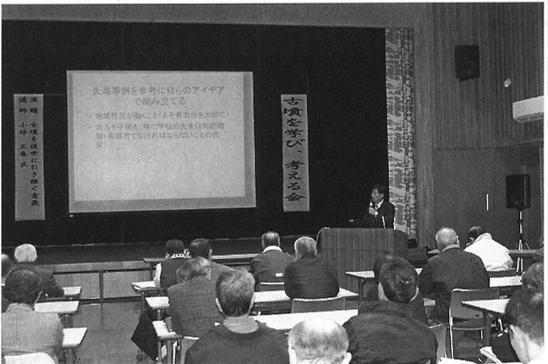
第一回の講座は、「なぜ竜丘に古墳が多いのか」をテーマに行われました。古墳について、初歩から時代の背景や、地理条件をわかりやすく話され、竜丘の古墳の意義を「数の多さではなく、質でどうとらえていくかが重要」と語られました。

第二回は、「古墳を後世に引き継ぐ意義を考える」とし、古墳時代の竜丘が伊那

の参加者が集まりました。経験者は半数位でしたが、すぐにルールにも慣れ、実際に楽しそうでした。

これなら新しいユニークな道具として使えと確信しました。

今年度、公民館で一セット購入しました。しかし、少し大きな大会をするには三セットは必要です。高額ですが、各種補助金を使っても何とか揃えたいと考えております。分館、福祉施設子ども教室等で活用していただければ幸いです。



古墳を学ぶ会